

分科会 8

家族にも役立つ訪問支援 ～メリデン、オープンダイアログ、ACT～

佐川まこと（鴻巣市心の健康を守る家族の会）
上久保真理子（びあくクリニック）
三ツ井直子、糸山直恵（訪問看護ステーション KAZOC）
笠原陽子（S-ACT）

コーディネーター： 梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル）

いろいろな分野において、訪問支援が拡大する機運は高まる一方です。そのような中、当事者主体の支援が少しずつでも熟してきているのに比べると、家族を主体に据えた支援というものがまだまだ足りないように思われます。この分科会では、家族のニーズに応えたいという思いから、様々な視点から家族のリハビリに焦点を当て、フロアの皆さんと共に家族にこそ役立つ訪問支援についての対話を重ねました。

【出演（話題提供）者】

- ☆ コーディネーター：梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル）
- ☆ 家族の立場の方：佐川まこと（鴻巣市心の健康を守る家族の会）
- ☆ メリデン版家族支援実践者：上久保真理子（びあくクリニック）
- ☆ オープンダイアログ実践者：三ツ井直子、糸山直恵（訪問看護ステーション KAZOC）
- ☆ ACT 実践者：笠原陽子（S-ACT）

【報告・発表内容】

- ① コーディネーターより、全国規模の家族の調査結果から読み取れる「家族の文脈」をもとに、この分科会の趣旨を説明
- ② ACT 実践者より、ACT の臨床家として家族に関わってきた自身の経験を振り返りながら、訪問型の家族支援について
- ③ オープンダイアログ実践者より、オープンダイアログの歴史や理念、世界観を中心に、訪問看護ステーション KAZOC の活動について
- ④ メリデン版家族支援実践者より、これまでの多職種による訪問支援の限界に触れた上で、新たなるファミリーワークという技法の重要性について
- ⑤ 家族の立場の方より、平成 29 年度に実施された“みんなねっと”の家族調査結果や自身の研究内容なども交えながら、訪問支援を望む家族の想いについて

【意見交換】

フロアの参加者の皆さんからは、時間が足りないほどの沢山のご質問を頂戴しました。

ご家族の立場の方からは、どのようにしたら ACT やオープンダイアログ、メリデンのサービスを受けられるようになるのか？ などのご質問をいただきました。

臨床家の方や研究者の方からは、それぞれの現場での様子をもとに、具体的な家族への関わり方についてのご質問やご意見をいただきました。

行政の立場の方からは、家族支援を地域で充実させるためにはどのように導入していったら良いのか効果的な方

法を教えてもらいたいなどのご質問をいただきました。こうしたご質問に対して、出演者のほうから一つひとつ答えいく形で後半の意見交換が進みました。

分科会の後には、今後もこのような家族のための時間や場所を設けてもらいたいというご要望も頂戴しています。日本の家族支援がその先進国と肩を並べられるくらいに、今後より一層充実していくことを切に願います。

《梁田英磨（東北福祉大学せんだんホスピタル）》